
■■■日本世代間交流協会ニュースレター 2015年8月号■■■

お盆明けからいくぶんしのぎやすくなりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。定期刊行のニュースレター、8月号をお送りします。

【目次】

1. 活動報告
2. 活動予定
3. 出版物の案内
4. 「会員の声」
5. 「会員の声」募集
6. 次号（12月）の予定

【1 活動報告】

■ 世代間交流セミナー 1 ■

5月30日15:00～16:50に、日本世代間交流協会総会後に朝霞ぐらんぱの会の皆様をお招きして、シニア世代の男性のみによる子育て支援・世代間交流の取り組みについてご講演をしていただきました。その時のご様子について、協会員の小笹先生(神奈川県犬蔵小学校)より報告をして頂きました。

「朝霞ぐらんぱの会」のみなさんと～皿まわしに挑戦！～

小笹 奨

「朝霞ぐらんぱの会」の皆さんと、皿まわしに挑戦しました。金田先生、とってもお上手で、師匠なみでした。

5月30日開かれた協会総会後、埼玉県朝霞市で活動するシニア男性の会「朝霞ぐらんぱの会」4名のかた（おひとりは保健センターのかた）からお話をう



【皿回しに挑戦している様子】

かがいました。とっておきの裏ワザ「皿まわし」にもチャレンジさせてもらいました。ぐらんぱの会は、朝霞市の保健センター（健康づくり課）が平成24年度から企画している、＜シニア男性を子育て支援者に＞という養成講座に参加した人たちが中心になって結成した会。会員数は、37名だそうです。会の27年度計画を見ると、とても充実しています。

- ・ 小学校2校への支援（4月から）
- ・ 放課後児童クラブ8か所への支援（4月から）
- ・ 市立保育園（園庭開放日）への支援（4月から）
- ・ 読み聞かせ（小学校1校）支援（4月から）
- ・ 6日間のサマースクール5会場（延べ117名参加）
- ・ 市の小学生サマーキャンプ事業（1日）参加
- ・ 子ども大学あさか学園祭「ミニあさか」小学生社会体験支援（10月）
- ・ 中学校区ふれあいまつり2地区への支援（11月）
- ・ もの作り体験教室（小学生約800名参加）（3月）……

ぐらんぱの会から3名の男性がいらっしゃいましたが、みなさん個性的でしっかりしたお考えをもっているだけでなく、実際に子どもたちとふれ合う中で楽しみながら成長していらっしゃる様子や柔軟な姿勢で子どもたちと向き合っている様子が、お話から伺えました。活動を積み重ねていく中で、短時間で子どもの集中を引き出し、子どもも大人も夢中になって取り組める「皿まわし」に出会ったとのこと。皿まわしの先生も遠くから招いて研修したそうです。ひとつひとつの活動に参加していく中で、試行錯誤しながら日々いろいろなことにチャレンジし進めている様子が伝わってきました。新しいことを吸収しながら成長する会、という感じがしました。

この会の成功には、行政との協働（協同）があります。朝霞市保健センター（健康づくり課）が仕掛けた「ぐらんぱ育児支援マイスター養成講座」。1コマ90分計30コマ。講座終了で、はい終わりではなく、修了生による会の立ち上げ（組織化）の支援、会の活動拠点との中継ぎ、フォローアップの研修や講師の紹介等々、そのあたりのお話は伺いませんでしたが、ていねいな継続支援を行っていることが分かります。こういう養成講座そのものを保健センターが企画し、継続支援を行うという発想は、従来の保健センターの役割にとらわれているとなかなか出てこないのではないかと思います。連携を超えた協働（協同）といえます。

お話を伺っていて、何か世代間交流の本格的な時代に入ったのではないか、という感じがしてきました。いよいよ協会の出番が来ているな、と感じずにはいられませんでした。（文責 小笹 奨）

■ ジェネレーションズ・ユナイテッド国際大会の開催 ■

7月21日から24日にかけて、ジェネレーションズ・ユナイテッドの国際大会が、ハワイで開催されました。大会時のご様子を草野篤子前会長にご報告をして頂きました。

第17回米国 Generations United 国際会議の報告

草 野 篤 子

今年の7月21日から24日まで、米国 Generations United 第17回国際会議がハワイ・コンベンション・センター（ホノルル中心街のアラ・モアナホテルの近く）で 世界10か国から総勢200人ほどが参加して開催されました。Generations United（ジェネレーションズ・ユナイテッド）は、あらゆる世代の権利を擁護する全米でも大きな影響力を持つ団体です。

昨年までは、毎夏、米国東海岸ワシントン D.C.で開催されてきて、日本からの参加者・発表者は、私のほかに溝邊、吉津の両氏くらいでしたが、今年は、日本人の参加者は45名を超え、発表者も17名ほどに上り、世代間交流協会・学会員も多く発表しました。今大会は、日本の高連協（高齢社会 NGO 連絡協議会）が、協賛団体になったことが、大いに影響していると思われます。日本世代間交流協会会長・江東園代表の杉啓以子氏、高連協共同代表の樋口恵子氏も、それぞれの団体を代表して挨拶をされました。



【発表者記念撮影】



【学会発表の様子】

日程は、7月22日（水）開会行事とポスターセッション。ドナ・バットGU代表、メイ・メンダーソン実行委員長などの挨拶、そして約20のブースに分かれてのポスターセッション。23日（木）は、8つのワークショップ開催。そのうち、セッション2でピーター・ホワイトハウス夫妻・溝邊・草野の4人が発表。ピーターさんは、もともと認知症と世代間交流の研究者ですが、妻のキャシーさんとご本人が経営している世代間交流学校について、溝邊さんは、関西の学校での世代間交流、私は、東京都東村山市で25年以上続く「里孫プログラム」について発表。24日（金）午前8時から、ハーヴァード大学のロバート・パットナム氏による基調講演、その後は、19セッションのラウンドテーブル。午後は閉会行事。夕方からは希望者総勢20数人ほどで、カラオケに行き、老若男女の国際色豊かなメンバーで、夜遅くまで歌を歌い交流しました。ロバート・パットナム氏による基調講演は、以下の通りです。

パットナムは、”Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community”など、ソーシャル・キャピタルについての著書で有名です。今回は、この春、米国で発売になった“**Our Kids: The American Dream in Crisis**”にちなんで、アメリカの家族崩壊や、安定した子育てが行われていないこと、低所得の若者、不安定な仕事で結婚できない若者についての話などがなされました。

特にここ40年間は、社会階層間の不平等（格差）、人種間の不平等（格差）、所得格差、富裕層と貧困層との経済的不平等が子どもの学校教育に影響を与えており、社会的な階級・階層といった社会関係が、アメリカ社会を支配しています。3つの世代を考えると、1950年代は、祖父母世代は高校もまともに卒業できなかった者が多かったのですが、孫世代は、大学院を修了するといった変化も見られます。ここ20年間は、子どもの貧困といった現象が顕著で、差

別が増大しています。特に居住地別、家族構成別による階層格差が著しく、所得の多寡によって近隣環境が著しく異なり、両親の子どもに対する教育投資における階級・階層格差も著しい。例えば、コンピュータ教室やピアノのレッスン、サッカー教室への参加などにおいても、貧しい家庭の子どもは、通うことができなくなっています。また、裕福な家庭の子どもなどは、夏休みなどにヨーロッパなどへ留学などもしています。

時間の問題においても、就寝時間に親が子どものベッドサイドでお話をしてあげたり絵本を読んであげたりできるか否か、家族一緒の夕食が取れるか否かなど、人間の基本的な生活における時間の共有などにもかかわっています。このように、所得格差が、教育の機会における数々の格差を作り出しており、大学に進学・卒業できたか否かで、次世代の子どもたちへの影響が大きいことを、データを使って話されました。

パットナムは、これらの問題を解決するためには、皆が地域で、そして全国的に声を発していかなければならない。この貧しい子どもたちも米国の子どもであり、能力のある子どもが持つ力が発揮されていないのだからと結びました。日本でも、親の所得によって塾に通える・通えない、大学に入学できる・できない等、子どもに何ら責任のない教育の機会が不平等である点など、多くの共通する問題を抱えており、考えさせられることが多々ありました。

(文責 草野篤子)

■ 世代間交流セミナー 2 ■

7月12日(日)10:00~11:30に、世田谷区男女共同参画センター らぶらす11階 研修室3にて、東京都健康長寿医療センター研究所研究員の安永正史先生がご自身の博士論文をもとに「子供の育ちを支える世代間交流プログラムの効果」を演題とした講演を行いました。安永先生は、絵本の読み聞かせボランティア“りぷりんと”による小中学生への絵本の読み聞かせと読み聞かせ指導が、子どもの高齢者観に影響を及ぼすことを科学的に検証されており、その成果を分かりやすくご説明してくださいました。

*本研究の一部は、今後ニュースレターでもご紹介する予定です。

■ 日本世代間交流学会誌 Vol15. 編集委員会より ■

本年も多くの会員の方々からご投稿いただき、編集に携わる者としてたいへん感謝をいたしております。あわせて、お忙しい中、投稿論文の査読にご協力くださった多くの先生方には厚くお礼を申し上げます。現在は、投稿者の皆様にご提出いただいた原稿の査読作業(第3回目)を行っております。昨年度と同様に今秋に発刊する見込みです。

■ 世代間交流コーディネーター養成講座が開催されました ■

世代間交流コーディネーター養成講座はコーディネーターをするのに必要な資質や技術を身につけることをめざし、世代間交流コーディネーターの基礎力を養成するものです。

『講座日程』

1日目（実習）

日時：2015年8月28日（金） 9:00～17:00

場所：東京都江戸川区社会福祉法人「江東園」

2日目（講義・討議）

日時：2015年8月29日（土） 10:00～19:30

場所：白梅学園大学

詳細は、次のHPをご覧ください。<http://www.jiua.sactown.jp/>

【2 活動予定】

■ 日本世代間交流学会 第5回全国大会 ■

日本世代間交流学会 第5回全国大会が、以下の要領で開催されます。今大会では、「世代を超えて -世代間交流と死生観-」をテーマに研究発表、学術的ならびに施策的側面からシンポジウムを行います。

日時： 2015年10月3日（土）

場所： 追手門学院 大阪城スクエア（於大阪府大阪市）

交通機関（電車で）

●京阪電車「天満橋駅」駅下車 → 東出口14番より徒歩7分

●大阪市営地下鉄「天満橋駅」駅下車 → 1号出口より東へ7分

詳細は、下記の学会ホームページにて、随時更新されます。

⇒<http://www.jsis.jp/news141028.html>

皆様ふるってご参加下さい。

【3 出版物の案内】

■ 『世代間交流—老いも若きも子どもも—』14号、特定非営利活動法人日本世代間交流協会第7号の発行■

当協会の定期刊行物であるこの機関誌は、国立国会図書館の定期刊行物の指定を受けております。

■ 地域を元気にする世代間交流 ■

倉岡正高 編著 草野篤子、藤原佳典、杉啓以子ほか著 (公益財団法人社会教育協会)、(900円)

世代間交流の意義、研究方法および実践事例について、分かりやすく解説した入門書となっております。世代間交流の研究者や実践家がそれぞれ豊富な経験と蓄積された研究成果をもとに執筆いたしました。なるべく多くの方に読んで頂きたい1冊です。

■ 『人を結び、未来を拓く世代間交流—世代間交流の理論と実践シリーズ1』■

草野篤子・溝邊和也・内田勇人・安永正史・山之口俊子編著『人を結び、未来を拓く世代間交流—世代間交流の理論と実践シリーズ1』(三学出版) 2015年4月刊
2,268円

本書では、世代間交流学の確立に向けて、社会学、心理学、教育学など他分野の専門家により、それぞれの分野で行ってきた世代間交流に関する研究と実践を分かりやすくまとめられております。ぜひ、ご一読ください。

【4 「会員の声」】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談をニュースレターに掲載したいと思っておりますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じることなど、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。

[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp) ([at]を@に変更してください)

【5 その他】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談・エッセー・詩・俳句などを、ニュースレターに掲載したいと思いますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じる事など、どのようなことでも結構ですので、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。本号では草野篤子前会長、小笹奨先生(川崎市立犬蔵小学校)、安永正史先生(東京都健康長寿医療センター研究所)のご協力のもとで、原稿及び資料写真を収集することができました。心より感謝申し上げます。今後ともご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

【6 次号(12月)の予定】

1. 活動報告
2. 活動予定
3. 会員の声
4. その他

【編集後記】

今月のニュースレターは、いかがでしたでしょうか。
次号も、どうぞよろしくお願いいたします。

ご返信は、[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp) ([at]を@に変更してください) にお願ひします